

文学部の教育の特色

→ 系統的かつ柔軟で 発展性のある指導

文学部は、4つの学科に10のコースを置き、21という多彩な教育研究領域を有します。入学試験時に学科を選択し、2年生進級時に、学科内のコースに所属することになります。各コースに用意された教育研究領域の履修モデルを参考にしながら、自分の関心、学習動機に応じた、学習計画を立てることができます。

(14ページ「文学部の構成」参照)

← 現代社会に対応した 実践的教育

文学部の学びは実社会と関わりが薄いと思われがちですが、実際は授業やフィールドワークを通し、社会についての問題関心を深め、実践的な知識や経験を積むことができます。人文・社会系の専門分野で活躍するとともに、科学・技術の様々な分野の知識や専門家をつなぎ、それらを編成し直して、新しい価値を創造できる人材を育成します。



→ 個々の学生の関心に 応じる少人数教育

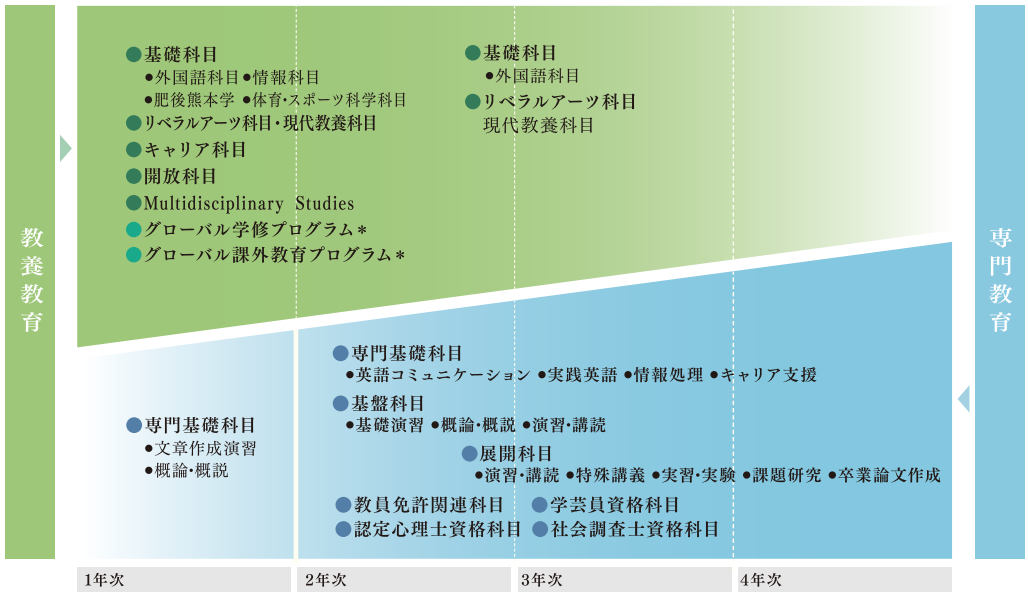
学生10人に対し教員が約1人の割合という少人数教育の環境で、学習に励むことができます。授業は、知識を伝えることはもちろん、その主眼はそこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることです。一人ひとりが「感じ(問題発見)、自ら調べ(資料収集・調査)、考え(分析・考察)していく」、それを教員がサポートします。

← 総合的な メディア・リテラシー教育

整備された学内のコンピュータ・ネットワーク環境を積極的に活用しています。1年次に情報機器の利用法を学び、学習に使用できるようになります。また、文章を読み解き、自らの見解を筋道立てて書いたりプレゼンテーションしたりする技能を修得する授業も用意。総合的なリテラシーの育成を目指したカリキュラムを組んでいます。

履修課程(カリキュラム)

特定分野の専門知識や技術を身につけるだけでなく、今を生きる人として求められる「総合力」を涵養することを重視しています。幅広い知識や多様な考え方・アプローチ・方法を獲得・理解するための教養教育を学びながら、それぞれの専門分野(研究領域)に次第に進んでいくカリキュラムが組まれています。



教養教育

教養教育は、多様で俯瞰的な視野・視点で物事を理解し考える素養や力を養うとともに、グローバル社会、情報社会を生き抜くための能力を身につけることを目的としています。語学や情報リテラシー、キャリアなどに関するスキル系科目、多様な学問領域の視点や考え方を体験しさらに深めることができる科目、現代社会の問題をグローバルな視点から考える科目、などが体系的に提供されています。

* グローバルリーダーコースは、文学部・法学部・理学部・工学部の4学部横断型で設定された、国内外における地域の課題をグローバルな視点で考え、果敢に行動できる人＝グローバルリーダーを育てるためのコースです。文学部に所属する同コースの学生は、通常の教養教育に加え、独自の「グローバル学修プログラム」「グローバル課外教育プログラム」を1,2年次においては主に学び、その後文学部の専門教育に進みます。同コースの入試は通常の文学部の入試と異なります。詳しくはホームページをご覧ください。

専門教育

専門教育は、それぞれの教育研究領域の理論や研究手法を系統的に学んだうえで、自分独自のテーマを発見、指導教員のもとで研究を深め、卒業論文を執筆することを目標に構成されています。各学科とも1年次は、学科を構成する学問領域の基礎を学び、2年進級時に専門領域を選択します。また、専門領域における各種の資格取得などを旨とする科目も提供されています。

授業科目

教養教育科目、文学部の専門教育科目とも、「豊かな教養」「確かな専門性」「創造的な知性」「社会的な実践力」「グローバルな視野」「情報通信技術の活用力」「汎用的な知力」といった7つの学習能力において、どの能力育成に寄与するかを明確にしたうえで設計されています。

教養教育 科目群

📖 基礎科目

英語だけでなく、独・仏・中・コア語の「外国語」に加え、「情報」「体育・スポーツ」「理系基礎」があります。熊本の歴史・文化・社会・自然・環境・生命に関わる事象を学問として学ぶ「肥後熊本学」も提供されています。

📖 リベラルアーツ科目

学問を「体験」する科目として、多様な学問分野固有の視点や考え方を学び主体的に考える力を養うことを目的に、文系(人文・社会分野)、理系(自然・生命分野)両方にわたり、多様な科目がラインナップされています。

📖 現代教養科目

リベラルアーツ科目と同様に、特定の学問分野にフォーカスした科目ですが、その分野をより深く理解することを目的としています。それぞれの分野における学問的課題の理解に加え、現代の社会課題に対してどのようなアプローチによりどのような成果を上げているか、などを学びます。

📖 キャリア科目

社会的・職業的自立を図ることに求められる能力を養うための科目で、キャリア・デザインの知識や技法、仕事だけではなく様々な活動を通じて社会参加をおこなうこと、などを学べます。なお、学生が実施したボランティア活動やインターンシップ(職業体験)、本科目の単位として認める仕組みもあります。

📖 Multidisciplinary Studies

Multidisciplinaryとは「学際的」という意味です。複数の学問分野の知識やノウハウを動員し、プレゼンテーションやディスカッション、実習などを含む双方向型の活動を行うことで、現代社会の問題や解決策を考えることを特徴としています。グローバルリーダーコースの学生向けですが、一般の文学部生も受講できる科目が数多く用意されています。

* 開放科目とは、特定の目的をもった科目群の名称ではなく、各学部で開設されている科目のうち、教養教育に相応しい内容の科目を、開講学部以外の学生が履修できるよう教養教育に指定する制度です。

* グローバル学修プログラムおよびグローバル課外教育プログラム(p12参照)は、授業科目ではなく、グローバルリーダーコース専用の、授業科目や学習等の活動を組み合わせた教育コースの構成単位です。グローバル学修プログラムを構成する科目が、リベラルアーツ科目、現代教養科目、Multidisciplinary Studiesです。

専門教育 科目群

📖 専門基礎科目 (1 年次)

学科・コース単位の基礎的な講義および質問や議論により知識を学ぶ「概論」「概説」に加え、パラグラフ・ライティングと呼ばれる汎用的な文章や学術的な文章の作成技能を育成する「文章作成演習」が1年次から開講されています。

📖 専門基礎科目 (2 年次)

2年次以降の専門基礎科目は、「英語コミュニケーション」「実践英語」といった英語運用スキル、文系的な視点から情報技術にアプローチし情報の分析・編集などを学ぶ「情報処理」、より実践的な「キャリア支援」など、主に専門分野以外にも視野を広げる科目がラインナップされています。

📖 基礎盤科目

2年次以降に提供される、各教育研究領域にフォーカスした「概論」「概説」に加え、共同作業などを通じて教育研究領域の技能を修得する「基礎演習」「演習」、さらには専門書や資料などを読み解く「講読」と呼ばれる科目が専門を深める入口として用意されています。

📖 展開科目

より高度な「演習」「講読」に加え、教育研究領域によってはフィールドワークなどの「実習」や「実験」があります。また、教員自身の専門分野における最新の研究動向や成果を解説する「特殊講義」と名付けられた専門性の高い科目もあります。

↳ 展開科目(卒業論文関連科目) ↳

学生は、「ゼミ」と呼ばれる研究室に所属し個々のテーマで卒業論文執筆に向けた研究を行います。「課題研究」では、教員のサポートのもとで個々の研究テーマを追求し、計画を立て調査や実験・分析といった研究活動をおこなっていきます。研究の最終成果物が「卒業論文」です。

📖 資格関連科目

中学校や高等学校を対象とした教員免許取得はもちろん、博物館(美術館、科学館、動植物園、水族館なども含む)での資料収集・保管・展示および調査研究に従事するための学芸員資格、基本的な心理学の知識やカウンセリング技術を対象とした認定心理士資格、さらには世論や市場動向を始めとした社会調査に関する調査・分析能力に関する社会調査士資格、に関する科目を提供しています。また、海外留学に有用なIELTS、ビジネスなどで重視されるTOEICなど、英語検定受験をサポートする科目もあります。